

公益社団法人日本放射線腫瘍学会

2022 年度（2022 年 9 月 1 日～2023 年 8 月 31 日）事業報告

1. 学会等の学術的会合の開催及び学術研究の支援

- 第 35 回学術大会を 2022 年 11 月 10 日～12 日、リーガロイヤルホテル広島・NTT クレドホール・広島グリーンアリーナ(広島市)にて開催し、2022 年 11 月 30 日～2023 年 1 月 22 日までオンデマンド配信を行った。第 35 回学術大会報文集を発行した。
- 小線源治療部会学術大会（2023 年 5 月 19～20 日）、生物部会学術大会（2023 年 6 月 23～24 日）、高精度放射線外部照射部会学術大会（2023 年 3 月 3～4 日/国際関連記念特定資金事業による第 7 回高橋信次 記念シンポジウムと併催）を開催した。
- 優れた学術研究計画の選出を行い、その研究支援および論文投稿の助成を行った。
- 国際交流
 - ・欧州放射線腫瘍学会（ESTRO）との MOU に基づき、第 35 回 JASTRO 学術大会（2022 年 11 月 10 日）において JASTRO-ESTRO ジョイントシンポジウムを開催した。また、ESTRO2023（2023 年 5 月 15 日）にて ESTRO-JASTRO ジョイントシンポジウムを共催した。
 - ・アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）へ役員等の推薦を行い、各種活動支援を行った。
 - ・米国放射線腫瘍学会（ASTRO）への活動支援のため新規 MOU 締結の提案・協議を進めた。
 - ・第 8 回台湾-日本放射線腫瘍学シンポジウム（2023 年 8 月 26 日）へ代表者派遣を行った。また台湾放射線腫瘍学会（TASRT0）との MOU 更新案を提案・協議し、調印した。
- 放射線医学・治療の学術・医療技術の相互理解を深めるため、日本小児血液・がん学会、日本腫瘍循環器学会等において合同シンポジウムを共催した。
- がん放射線看護セミナー等の放射線治療に関連するセミナー開催の支援を行った。

2. 学会誌等の刊行

- 機関誌（英文の研究論文集）を年度内 計 6 巻オンラインにて発刊した。また粒子線治療成果論文を特別号「Recent evidence on particle beam therapy」として発刊した。
- 世界に向けて広く発信する英文機関誌の普及・向上を目的として、Highly cited award、優秀査読者賞の顕彰事業を行った。また、JRR 誌優秀論文賞を新設し、公募および受賞者の選出を行った。
- ニュースレターを計 4 回刊行した。

3. がん等の放射線治療についての普及、啓発活動

- 放射線治療についての一般市民・患者さんへの理解・普及を目的として、市民公開講座の開催（2022 年 11 月 12 日）、リーフレット配布、及び、書籍の発刊準備を行った。また、放射線治療を題材とした漫画作品のプレコンテストを実施した。

- がん放射線治療の最新情報の発信・広報活動として、マスコミ向けプレスカンファレンスを行った。
- 医学生・研修医向けに、放射線腫瘍学講座の紹介等広報活動を行った。また、医学生・研修医のための放射線治療セミナー（オンライン、東京、大阪計3回）を開催した。
- 研究者等の奨励を目的として、阿部賞・梅垣賞の顕彰事業を行った。
- 地域等の放射線治療の進展を目的として、地域貢献賞の顕彰事業を行った。
- 優れた学術研究課題に対して、必要資金の一部を助成した。
- 放射線治療における優れた研究成果を広く還元することを目的として、関連する他領域の学術団体での発表を支援し助成した。
- 放射線治療の医師・メディカルスタッフへの海外研修の助成事業を行った。
- 放射線療法の提供体制構築に資する研究調査を行った。

4. がん等の放射線治療の標準化に資する事業

- 放射線治療従事者への教育を目的として、教育講演を行い、講義コンテンツを掲載した。
- 専門性に特化した教育的事業として放射線生物学セミナー（2023年2月18日）、放射線治療・物理学セミナー（2023年6月24日）、小児がん放射線治療セミナー（2022年9月17日/2023年6月17日計2回）、若手医師の教育を目的として放射線腫瘍学夏季セミナー（2023年8月5-6日）を行った。
- 細胞・分子レベルの放射線治療標準化を目的として、第4回放射性同位元素内用療法セミナー（2023年3月25日）を実施した。
- 小線源治療の普及および技術向上のため、第1回小線源治療ハンズオンセミナー（2022年11月26日）を開催した。
- MR画像誘導即時適応放射線治療に関する人材育成、研究推進のため第2回MR画像誘導適応放射線治療研究会（2023年7月1日）を開催した。
- 粒子線治療に関し、先進医療の枠組みで治療患者の全例登録を行うとともに臨床研究を推進した。また、先進医療実施施設への施設訪問を行った。粒子線治療全例登録（統一治療方針）によるエビデンス創出に努めるとともに、システマティックレビュー等も行い、さらなる保険収載を目的とした活動を行った。
- 治療計画の標準化を目的として、「画像誘導放射線治療の臨床施行のためのガイドライン」、「放射線治療用吸収性組織スぺーサネスキープの適正使用指針」の改訂を行った。また、「放射線治療計画ガイドライン2024」の発刊準備を行った。放射線治療に関係する関連学会各種ガイドラインの作成のため委員派遣、及び査読・外部評価を行った。
- 強度変調放射線治療（IMRT）の普及と推進を目的として、日本医学物理学会、日本放射線治療技術学会と共に2011年版の改訂版として「強度変調放射線治療における物理技術ガイドライン2023」を作成した。
- 放射線治療計画ガイドラインモニタリング指標に関する研究調査アンケートを集計した。

- 略語集の改訂作業、用語集・略語集の整合性確認作業を行い、WEB 用語集・略語集を統一した。
- 放射線治療専門医認定
 - ・ 2023 年放射線治療専門医の資格更新ならびに認定作業を行った。
 - ・ 第 32 回放射線治療専門医試験の実施ならびに認定作業を行った。
 - ・ 日本専門医機構サブスペシャルティ領域認定の準備を行った。
- 放射線治療施設の実態と個々の治療症例の診療内容を調査することを目的として、全国放射線治療実態調査（構造調査・症例登録）を行った。
- 第三者出力線量評価認定施設および認定第三者出力線量評価認定機関
放射線治療の品質の担保および治療成績の施設間差の最小化を目的として、定める基準を満たす施設および機関の認定を行った。
- 日本放射線腫瘍学会認定施設
安全かつ高精度な放射線治療を推進することを目的として、定める基準を満たす施設の認定を行った。
- 安全な放射線治療を推進することを目的として、当該施設から依頼があった事故防止対策委員会への委員を派遣した。
- 放射線治療における品質保証・医療安全の Quality Indicator に関する調査報告を行った。
- 放射線治療に関する診療報酬制度の適正化と追加・修正を検討し要望活動を行った。そのための様々な医療技術について費用対効果分析の研究を進めた。
- 令和 6 年度（2024 年）診療報酬改定に関わる諸作業を行い、医療技術提案書を提出した。
- 適切な放射線治療の提供体制の検討と提言を行うため、厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制構築に資する研究」、及び「がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究」の研究支援を行った。
- がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究を実施した。出血性胃がんに対する緩和的放射線治療について医療経済評価研究を進めた。
- 医学部における放射線治療教育、人材確保を推進するために全国の大学機関から教育用教材を収集した。また、少数勤務医をサポートするための出口戦略を見据えたアンケート調査を解析し、具体的方法と規約を検討した。

5. その他当法人の目的を達成するために必要な事業

- AI 研究のためのデータベースプラットフォーム構築について検討を進めた。
- 代議員増員に関する制度等の検討を進めた。
- プライバシーポリシー、謝金支給規程、会員等を対象としたアンケート調査を伴う調査研究実施にかかる内規等の改訂を行った。
- 事業報告・計画、理事会議事録の会員以外への一般公開（ホームページ）を実施した。

2022年度(2022年9月1日～2023年8月31日)各事業(委員会/部会)活動報告

【事業部門】

■ 編集委員会(委員長:佐々木 良平)

- Journal Radiation Research 誌(以下 JRR 誌)を以下の通り刊行した。
2022 年 Volume63(5)～Volume63(6)、2023 年 Volume64(1)～Volume64(4)の計 6 巻を刊行した。
また、Volume 64, Supplement I として、JRR 誌特別号「Recent evidence on particle beam therapy」を粒子線治療委員会と協同して、2023 年 6 月 20 日発刊した。
- JRR 誌の 2022 年の採択率は 31% (腫瘍学関係 25%、生物学・物理学関係 36%)であった。
2021 年の採択率は 30% (腫瘍学関係 26%、生物学・物理学関係 35%)
- 2022 年は Oncology 分野として、164 編の査読を行った。
- JRR 誌のインパクトファクターは 2.0(2022 年)となった(2021 年 2.438)。尚 5 年のインパクトファクターは 2.2 である。
 - ・ IF 順位 54 位/92 誌 <分野: Biology> ・ IF 順位 97 位/135 誌 <分野: Radiology, Nuclear Medicine & Medical Imaging> ・ IF 順位 210 位/241 誌 <分野: Oncology>
- JRR 誌の「Highly Cited Award」(1 名)と「優秀査読者賞」(2 名)を選出し、理事会へ上申した。
- JRR 誌の新たな賞として「JRR 誌優秀論文賞」を創設し、内規案の作成 及び公募を実施し、2 名を推薦・理事会へ上申し、選出した。
- JRR 誌の寺島論文賞を選出した。

■ 広報委員会(委員長:岡嶋 馨)

- Newsletter 通巻 145-148 号(2022 年 No. 3～2023 年 No. 2)を発刊した。(学会会員専用 HP にも掲載)
- Journal club No. 263～No. 269 を配信するとともに、当会ホームページ・Newsletter に掲載した。
- JASTRO gram No. 1327～No. 1376 を配信した。
- 2022 年 9 月 15 日、プレスカンファレンス 2022 を 2 年ぶりに対面形式で開催した。また、プレスカンファレンス 2023 開催(2023 年 9 月 22 日)の準備を行なった。
- 患者さん・一般向けパンフレット「放射線治療を受けられる方へ」、「がんは放射線治療の時代へ」を広く配布した。
- 一般・患者さん向け書籍「粒子線治療がしっかりわかる本」(広報委員会/粒子線治療委員会編著)の編集を行った。(出版は 2023 年 9 月)
- 特定資金「放射線治療 PR 事業」の企画案 [(1) 放射線治療を題材にしたコミックによる一般への啓蒙 (2) オンライン市民公開講座 (3) 学生・研修医向け動画作成 (4) 市民へのアンケート調査]のうち、(1)「コミック」による PR 事業について、会員へ漫画シナリオを公募し、応募 18 作品より 3 シナリオを選定。これを元に漫画家をを目指す専門学校生を対象にコンテストを実施し、一次審査「ネーム」4 作品を決定した。(2023 年 11 月初旬の最終審査により優秀賞を決定し、冊子体の頒布やメディアへ PR を予定)

■ 教育委員会（委員長：内田 伸恵）

- 2022 年 10 月 1 日、2023 年 3 月 18 日にがん放射線治療看護セミナーを WEB と現地のハイブリッドにて日本がん看護学会と共催した。
- 第 7 回小児がん放射線治療セミナーをオンライン開催した[2022 年 9 月 17 日/淡河 恵津世世話人(久留米大学)/参加者 205 名/オンデマンド配信あり]。また、第 8 回セミナーをハイブリッド開催した[2023 年 6 月 17 日/橋本 孝之世話人(北海道大学)/北大医学部学友会館「フラテ」/参加者 115 名内現地参加 21 名]。
- 第 35 回 JASTRO 学術大会にて教育講演を行った[2022 年 11 月 10～12 日/リーガロイヤルホテル広島/オンデマンド配信あり]。
- 2022 年 11 月 11 日、2023 年 4 月 15 日教育委員会を開催した。
- 第 13 回放射線生物学セミナーを生物部会と共催にて、オンライン開催した[2023 年 2 月 18 日/宮川 清世話人(東京大学)/参加者 160 名/オンデマンド配信あり]。
- 第 11 回放射線治療・物理学セミナーをオンライン開催した[2023 年 6 月 24 日/磯辺智範世話人(筑波大学)/参加者 238 名/オンデマンド配信あり]。
- 2022 年度優秀教育講演賞 3 名を選出した。また、2022 年度優秀教育発表奨励賞 8 名を選出した。
- 第 24 回放射線腫瘍学夏季セミナーをハイブリッド開催した [2023 年 8 月 5～6 日/井垣 浩世話人(国立がん研究センター中央病院)/同病院大会議室/有料参加者 326 名/オンデマンド配信あり]。
- 放射線治療の医師・メディカルスタッフ（診療放射線技師・医学物理士・看護師）を対象とする「海外研修助成事業」公募を行い、助成対象者として 1 名を選考した。
- 教育講演のシラバスを当会ホームページ(会員専用ページ)に掲載した。（希望者には冊子体を配布）
- FARO 教育委員会の短期海外研修マッチングプログラムについて、日本の受入施設の推薦を行った。
- 初学者向け教科書「やさしくわかる放射線治学」の改定作業を行った。

■ QA 委員会（委員長：澁谷 景子／前委員長：石倉 聡）

- PMDA 医療機器基準課・日本画像医療システム工業会（JIRA）で作成の「放射線治療計画プログラム」の認証基準案について審議し、理事会に上申、承認を得た。
- IMRT 物理技術ガイドライン改訂小委員会にて、2011 年版ガイドライン改訂の作業を行い、関連団体（日本医学物理学会、日本放射線技術学会、当会）の査読を経て、「強度変調放射線治療（IMRT）における物理技術ガイドライン 2023」（2023 年 2 月 6 日）を作成した。
- 日本医学物理学会「放射線治療計画プログラム搭載スクリプト機能の安全利用に関するガイドライン（スクリプトガイドライン）」を査読した。
- 第三者出力線量評価認定作業部会規程に基づき、作業部会員の推薦を行った。また、第三者出力線量評価認定制度の認定料について当面無料とすることを提案し、理事会に上申、承認を得た。
- 第三者出力線量評価認定制度規程に基づき、第 1 回改正案[技術的手法の要件：郵送による出力線量測定の実験のみの記載に、訪問による出力線量測定の要件を追記/第三者出力線量評価の経験及び実施可能施設数：地域連携等で訪問による出力線量測定を行う場合を想定した記載/営利企業に関する記載/無審査で認定機関とする 2 機関（IROC Houston/RDS）の記載]を提案し承認を得た（2023 年 4 月 14 日）。また、営利企業からの「第三者性確保、営利事業との明確な切り分けの確認」等への質問に

ついて、作業部会での回答案を作成、理事会に上申し、回答を行った。

- 第三者出力線量評価認定施設の申請受付を開始した。第1回受付期間内（2023年6月1日～7月12日）に申請された36施設について、第三者出力線量評価認定作業部会にて審査をおこない、理事会へ答申した。
- 第三者出力線量評価認定機関の申請受付を開始した（2023年6月1日～）。申請された1機関については第三者出力線量評価認定作業部会にて審査をおこない、理事会審議を経て承認を得た。2023年8月26日現在の認定機関を当会ホームページにて公開した。
- 「Machine QAの実施体制に関するアンケート調査」を企画・立案した。

■ ガイドライン委員会（委員長：井垣 浩／前委員長：秋元 哲夫）

- 「放射線治療計画ガイドライン 2024 年版」の発行に向けてガイドライン改訂 WG 委員の一部を公募し、改訂作業および発行準備を行った。
- 特別予算による「放射線治療計画ガイドライン 2020」のモニタリング指標に関する調査研究のアンケートを集計した。
- 「放射線治療用吸収性組織スケーラ ネスキープに関する適正使用指針 第2版改訂」を査読した。
- 「強度変調放射線治療における物理技術ガイドライン 2023」を査読した。
- 「子宮体癌治療ガイドライン 2023 年版」を査読した。
- 「患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん 治療ガイドラインの解説第3版」を査読した。
- 「前立腺癌診療ガイドライン 2023 年版」を査読した。
- 日本脳腫瘍学会「脳腫瘍診療ガイドライン」作成委員として市川 真由美会員、梅澤 玲会員、西岡 健太郎会員、松尾 政之会員、水本 斉志会員、宇藤 恵会員、石原 武明会員、吉武 忠正会員、片野 厚人会員、青山 英史会員、前林 勝也会員、井垣 浩会員を推薦した。また、同ガイドライン文献レビュー委員を公募し、山田 真義会員、矢野 菜津子会員、高橋 周平会員、西淵 いくの会員、中野 智成会員、橋本 弥一郎会員、田中 秀和会員、原田 英幸会員、島 聖会員、村本 耀一会員、中嶋 晃一朗会員、牧田 智誉子会員、佐藤 吉隆会員、上蘭 玄会員、川口 弘毅会員、西川 遼会員、稲葉 浩二会員、泉 佐知子会員、櫻町 円香会員を推薦した。
- 日本皮膚科学会「皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン(第4版)」作成委員として大熊 加恵会員、余田 栄作会員、吉岡 靖生会員、大西 かよ子会員、富田 夏夫会員、神谷 伸彦会員、平田 岳郎会員、井垣 浩会員を推薦した。
- 十二指腸癌診療ガイドライン作成委員会「十二指腸癌診療ガイドライン」作成委員として江島 泰生会員を推薦した。
- 日本頭頸部癌学会「頭頸部癌診療ガイドライン」作成委員として茂木 厚会員、安田 耕一会員を推薦した。
- 日本食道学会「食道癌診療ガイドライン第6版」作成委員として石川 仁会員、伊藤 芳紀会員、村上 祐司会員を推薦した。
- 日本婦人科腫瘍学会「卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン作成委員として磯橋 文明会員、梅澤 玲会員を推薦した。
- 日本癌治療学会「CANCER e-LEARNING」講義コンテンツの確認を行った。

- ガイドラインの転載等の許諾申請の可否を検討した。

■ がん放射線治療推進委員会（委員長：石川 仁／前委員長：溝脇 尚志）

- 既存の3つの小委員会（1. 医学生・研修医セミナー、2. RI 内用療法、3. 脊椎 SBRT）に加えて、5つのワーキンググループ（放射線治療の需要予測、男女共同参画・働き方改革、少数常勤医放射線治療医サポート、がんプロ養成プラン推進、医学部における放射線治療教育推進）を新たに小委員会として委員長・委員を選出した。
- 第4回放射性同位元素内用療法セミナーをハイブリッド開催した（2023年3月25日/KFC Hall & Rooms+WEB/参加者155名）。
- 医学生・研修医のためのオンラインセミナーを開催した（2023年5月27日/Zoom/参加者学生46名）。
- 第40回、第41回医学生・研修医のための放射線治療セミナーを、東京会場（2023年7月1日、バリアン本社、参加申込数15名）、大阪会場（2023年7月8日/ホテルフクラシア大阪ベイ/参加申込数20名）にて、現地開催した。
- 日本核医学会と合同シンポジウムを企画し、第63回日本核医学会学術総会（2023/11/7）、第36回 JASTRO 学術大会（2023/11/30）に、演者の推薦を行った。
- 転移性脊椎腫瘍に対する定位放射線治療の普及促進事業を企画・立案した。
- 民間医局レジナビのメール配信サービスを用いて広報活動を行った。
- 医学部における放射線治療教育、人材確保を推進する目的で全国の大学機関から教育用教材を収集した。
- 医学教育（モデルコアカリキュラム）における放射線治療教育の充実のための方策として、教育資料案を作成するために、大学等に教材の収集法を検討した。
- 少数勤務医をサポートするための出口戦略を見据えたアンケート調査を解析し、遠隔症例検討・相談の実現に向けて具体的方法と規約を検討した。
- 放射線治療の需要予測については、厚労科研大西班と連携して対応する方針とした。

■ 放射線治療専門医制度委員会（委員長：古平 毅）

- 放射線治療専門医制度委員会（日本医学放射線学会と共同）を6回（2023/2/6 筆記試験問題作成ガイダンス（web 会議）、2023/4/15 前年度問題の確認と試験問題作成のガイダンス（横浜）、2023/5/13、2023/5/27（試験問題ブラッシュアップ会議 東京）2023/8/25、2023/8/26 専門医試験実施と合否判定会議（東京））、併せて委員会メール審議を適宜開催して、放射線治療専門医に関連する協議、報告、第32回放射線治療専門医認定試験問題（筆記問題と口頭試験）の作成、そのブラッシュアップ、受験資格の審査、他（専門医更新審査の確認等）を行った。2024年度より開始する専門医機構認定のサブスペシャリティ放射線治療専門医認定試験実施に対する準備を検討し JRS 日本放射線専門医制度委員会、日本放射線専門医試験委員会との連携により対応した。また2024年度日本専門医機構認定放射線治療専門医の認定試験について問題数や試験時間等の変更案を検討した。
- 第32回放射線治療専門医認定試験（JASTRO・JRS 共同認定）をホテルニューオータニにて2023年8月25-26日に実施した（応募者62名、受験者61名）。第32回放射線治療専門医受験者61名中の合格者53名（86.8%）、放射線治療専門医更新（218名）、猶予（8名）、資格辞退（3名）を認定。
- 2022年日本医学放射線学会カリキュラムガイドライン改訂が行われサブスペシャリティ放射線治療

専門医研修に関連した改訂を JRS 放射線専門医制度委員会と連携し行った。

- 専門医機構サブスペシャルティ連絡協議会に参加し、運用に関する情報収集を行い必要な対応について検討した。
- 日本医学放射線学会が開催する ICT-WG に委員会よりメンバーとして参加し専門医研修および更新、単位認定のシステム運用に関する情報収集と検討に加わった(2022/9/29、2022/10/26、2022/11/24、2022/12/22、2023/1/19、2023/2/20、1、2023/3/20、2023/5/25、2023/6/29、2023/7/31 WEB 会議)。
- 第 36 回 JASTRO 学術大会に関しては、講習会「医療の質：治療」(放射線治療専門医(学会認定)の更新資格の必須講習)と、講習会「医療安全・放射線防護」、「医療倫理」(放射線治療専門医・診断専門医(学会認定)の更新資格の必須講習と専門医機構共通講習との単位併用可)の講師候補を選出して、JRS 教育委員会に推薦、「指導者講習会」の講師と座長を、JRS 専門医制度委員会に推薦した。第 83 回日本医学放射線学会総会に関しては、講習会「医療の質：治療」の講師候補を JRS 教育委員会に推薦した。
- がん医療エキスパート育成事業運営会議(日本癌治療学会)に委員を派遣し、e ラーニングのコンテンツの更新(放射線物理学、悪性リンパ腫の放射線治療、小児腫瘍、脳腫瘍に対する放射線治療)を行った。

■ データベース委員会(委員長：中村 和正)

- 2019 年分の構造調査の集計を行い、報告書の公開を行った。
- JIRA 経済部会放射線治療委員会と協働し、NDB データベースからの放射線治療件数の実態把握を行った。
- 症例登録(JROD)
2022 年度調査報告書(2021 年分)を作成した。
※次期症例登録は以下の日程で行う。
[次期事業：症例登録(2022 年分)2023 年 9 月 19 日～11 月 30 日]
- 放医研との共同研究契約
今年度も継続して、上記治療実態把握調査について、共同研究を行った。
- 放射線治療コードワーキング(WG)
健保委員会と協同し、WG を設置し、放射線治療コードについて検討を行った。
- 医療情報標準化推進協議会
協議会に DB 委員会より参加した。
- RI 内用療法症例データベースのプラットフォーム構築
がん放射線治療推進委員会と共同で、RI 内用療法症例実態把握のための症例データベースを構築することとなった。
- データ利用申請の審査(5 件)を行った。

■ 医療安全委員会(委員長：小川 和彦/前委員長：青山 英史)

- 当該施設から依頼があった医療事故第三者評価(過少照射)の最終報告書について検討し、会員専用ページへ掲載した。
- 日本学術会議からの医療従事者の職業被ばくについての現状と課題の意見募集について意見を取りまとめ、回答した。
- AAPT TG REPORT275 和訳本の配布について準備を行った。

- 「放射線治療部門の品質保証・医療安全の Quality Indicator を用いた Web 解析システム」による調査報告を行った。
- 日本被ばく研究情報ネットワーク（J-RIME）診断参考レベル（DRL）ワーキンググループの委員として、2 名を選出した。
- 当該施設から依頼があった事故防止対策委員会への委員推薦依頼に対し 3 名を選出した。

■ 学術委員会（委員長：村上 祐司／前委員長：青山 英史）

- 2023・2024 年度研究課題を募集し、応募のあった 8 課題（基礎 2 題・臨床 6 題）を評価し、評価の高かった 3 題（基礎 1 題・臨床 2 題）を理事会へ推薦した。
- 2021・2022 年度採択の研究課題 2 課題について中間報告書（会計報告を含む）の評価を行い、対応について検討した。
- 2020・2021 年度採択の研究課題 3 題の最終評価を行い、理事会へ上申し承認後、研究代表者に通知した。

■ 賞等推薦委員会（委員長：有賀 久哲）

- 2023 年梅垣賞・阿部賞の審査を行い、該当者を理事会に推薦し、決定した。
 - 2023 年ゴールドメダルの該当者を理事会に推薦し、決定した。
 - 2023 年名誉会員の該当者を理事会に推薦した。
 - 2023 年地域貢献賞の審査を行い、該当者・団体を理事会に推薦し、決定した。
 - 関連団体からの顕彰推薦依頼に関する周知サイトをホームページに設置した。
 - 関連団体からの顕彰事業に関して、募集周知および代議員等に該当推薦者の呼びかけを行った。
- 2023 年度日本学術振興会賞／2023 年度日本医師会医学会賞・日本医師会医学研究奨励賞／2023 年度日本学術振興会有志賞／第 21 回 SGH 特別賞／2023 年度日本対がん協会賞／2023 年度朝日がん大賞／安田医学賞／令和 6 年度文部科学省大臣表彰（科学技術賞、若手科学者賞、研究支援賞）

■ 国際委員会（委員長：青山 英史／前委員長：永田 靖）

- 第 8 回台湾-日本放射線腫瘍学シンポジウム（台北市、2023 年 8 月 26 日開催）へ代表者の派遣を行った。また台湾との MOU 更新案を提案・協議し、本シンポジウムにおいて MOU 調印式を行った。
[次回、第 9 回日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム（2024 年 8 月 17-18 日：札幌市、青山 英史大会長）の開催準備を行った]
- ASTRO との新規 MOU[合同シンポ両学術大会相互開催（開始：2024 年 ASTRO、2025 年 JASTRO）等]の提案・協議を進め、合意した。[第 36 回 JASTRO 学術大会中に調印の予定]
- JASTRO-ESTRO ジョイントシンポジウムを第 35 回 JASTRO 学術大会（広島、2022 年 11 月 10 日、テーマ：粒子線治療）において開催した。[次回：2024 年第 37 回 JASTRO 学術大会]
- ESTRO2023（2023 年 5 月 12～16 日 Vienna, Austria）にて開催された ESTRO-JASTRO ジョイントシンポジウムのテーマ選定・講師（原田 浩会員、京都大）の推薦を行った。[次回 2025 年]
- アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）の FARO 次期役員候補者の推薦（Secretary General：永田靖 前国際担当理事）を行った。

- 第6回アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）大会（ソウル、2023年10月13日）への演者推薦を行った。また、このFARO-KOSRO 2023期間中に開催予定の第11回日中韓合同シンポジウム（テーマ：AI）へ講師1名の推薦を行った。
- FARO Leadership Development Program への参加者募集・選定を行い、岸 徳子会員（京大）の推薦を行った。
- Asia Oncology Society (AOS) 2023 年大会（第61回日本癌治療学会 2023 年10月19～21日、横浜併催）に、当会会員からの複数の演題が採択された。
- 国際関連記念特定資金事業による第7回高橋信次シンポジウム(2023年3月3～4日千葉県柏市 柏の葉カンファレンスセンター/東京大学会議室)が第36回高精度放射線外部照射部会学術大会と併催された。

■ 用語委員会（委員長：有賀 久哲）

- JASTRO 略語集の改訂作業、用語集・略語集の整合性確認作業を行なった。
- これまでセパレートされていた WEB 用語集・略語集を統一し、利便性の向上を図った。
- パブリックコメントに寄せられた用語集への要望について審議・検討した。
- 会員の要望（用語統一、掲載内容など）の受付サイトについて審議後、WEB ページを新たに作成し、当会ホームページに公開した。
- 日本医学会分科会用語委員会のアンケート調査に対応して、日本医学用語辞典への JASTRO 用語集データの提供について審議し、回答した。
- 2022 年度日本医学会分科会用語委員会に出席し、医学用語辞典の改訂、遺伝学用語・不適切用語等について審議した。

■ 粒子線治療委員会（委員長：櫻井 英幸）

- 2022 年11月12日、2023 年4月14日に粒子線治療部会と合同で粒子線治療委員会を開催した。
- 部会に臓器別ワーキンググループの作成を指示し、次回診療報酬改定に際しての先進医療会議提出資料の作成について対応した。
- 粒子線治療に関する医療評価技術提案書の作成を行った。
- 先進医療の定期報告書を作成した。
先進医療会議からの質問に対して厚労省の担当者と打ち合わせを行い、回答書を作成・提出した。
また、先進医療の研究結果をとりまとめ厚労省に報告した。
- 先進医療実施施設への施設訪問を行った。
- 粒子線治療成果論文を JRR 誌特集号「Recent evidence on particle beam therapy」として発刊した。
- 一般・患者さん向け書籍「粒子線治療がしっかりわかる本」を広報委員会とともに作成し出版の準備を行った。

■ 医学物理士委員会（委員長：大野 達也）

- 厚労科研「放射線療法の提供体制に資する研究（研究代表者：大西理事）」に委員会として協力し、放射線治療専門医を対象とした物理技術専門職に関するアンケート調査の報告書を作成した。
- 医学物理士の今後のあり方に関して関連団体（日本医学放射線学会、日本医学物理学会、日本放射線

技術学会、日本医学物理士会、日本診療放射線技師会、放射線治療品質管理機構、日本放射線治療専門放射線技師認定機構、医学物理士認定機構）と意見交換を行った。

■ 健保委員会（委員長：大西 洋）

- 令和 6 年度（2024）診療報酬改定に関わる諸作業を行い、医療技術提案書を提出した。
- 診療報酬改定に関連した調査、内保連との連携、対政府との交渉を行った。
- 会員からの健保に関する質問事項に回答した。
- 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制に資する研究」（研究代表者；大西会員）研究班における放射線治療の需給予測について、データベース委員会・がん放射線治療推進委員会との連携を確認検討した。
- 特定資金事業「放射線治療費用対効果分析事業」を推進した。

■ 渉外・関連学会委員会（委員長：佐々木 良平／前委員長：大野 達也）

- 第 35 回 JASTRO 学術大会の発表演題の中から、他領域関連学会の発表候補者（助成対象者）を選出し、発表者に補助を行った。
- 「他領域関連学会発表補助(内規)」の会員への補助費の項目について、他の当会助成事業と同様、謝金ではなく実費相当の助成を行うこと、助成対象となる費目、会計報告提出を求める条項の追記改定を行った。
- 日本放射線影響学会との MOU に基づき、第 36 回 JASTRO 学術大会における合同シンポジウム案を企画し、演者・座長の推薦を行った。
- 依頼により、第 21 回（2024 年）日本臨床腫瘍学会における合同シンポジウムの JASTRO 側オーガナイザー（古平毅理事）を推薦した。
- 「JASTRO 共催・協賛・後援等の依頼等に関する取扱規程」に基づき、各関連学会・団体よりの後援・協賛・共催を 13 件審議し、理事会へ報告、上申した。

■ 施設認定委員会（委員長：小川 和彦）

- 2022 年（第 7 回）施設認定申請の 161 施設（更新：152 施設、新規：9 施設）について審査および可否判定を行った。
- 新規認定施設をホームページに追加掲載した。
- 認定施設として適格性を欠くに至った施設についての審議・対応を行った。
- 2023 年（第 8 回）JASTRO 認定施設の新規申請ならびに更新申請の受付を行った。

■ 緩和的放射線治療委員会（委員長：高橋 健夫）

- 2022 年 11 月 12 日、第 35 回 JASTRO 学術大会において緩和的放射線治療に関するシンポジウム「緩和治療の最前線～放射線治療の役割～」の発表を行った。
- 第 36 回 JASTRO 学術大会での JASTRO と日本緩和医療学会による合同シンポジウム「ちょっとした工夫で状況は変えられる 緩和照射への紹介活性化のための取り組み」および厚生労働省科学研究補助

金（がん対策推進総合研究事業）「がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究」（研究代表者：茂松 直之）に関するシンポジウムの発表準備を行った。

- 2023 年 6 月 24 日、第 5 回日本在宅医療連合学会におけるシンポジウムで「在宅医療と緩和的放射線治療 1 回照射の啓蒙に向けて」の発表を行った。
- 2023 年 10 月 1 日、第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会において合同シンポジウム「緩和的放射線治療の有効性を知ろうー成人の緩和的放射線治療のエビデンスから学ぶ」の演者推薦ならびに発表を行った。
- 緩和ケア関連団体会議（2022 年 12 月 8 日・2023 年 7 月 19 日 Web 会議）に出席し、緩和ケアに関する情報共有を行った。
- 2022 年 12 月 6-9 日、IAEA/RCA RAS6098 プロジェクト「緩和的放射線治療の標準化」、トレーニングコース #1 骨転移に対する緩和的放射線治療において、本委員会から 4 名が講師として参加した。
- 2022 年 12 月 9 日、第 10 回都道府県がん治療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部門において緩和的放射線療法の実施体制について報告を行った。
- 2022 年 11 月 27 日、がんの治療と暮らしフェア（NPO 法人キャンサーリボンズ）で「知っておくべき緩和ケアの今-放射線治療を中心に」の発表を行った。
- 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制構築に資する研究」（研究代表者：大西会員/研究分担者：高橋会員）に本委員会として引き続き研究を支援した。
- 厚生労働省科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究」（研究代表者：里見 絵理子氏/研究分担者：高橋会員）について「専門的がん疼痛治療の地域医療連携体制構築に関する研究・放射線治療」の研究を支援した。
- 胃がん患者の商用レセプタデータを用いて、出血性胃がんに対する緩和的放射線治療について医療経済評価研究を進めた。
- 緩和的放射線治療好事例集作成のための準備を進めた。
- 骨転移に対する緩和的放射線治療の医療経済評価についての準備を行った。

【管理部門】

- **倫理委員会(委員長:高橋 健夫)**
 - 役員等の利益相反自己申告書の審査を行い、問題のない事を確認した。
 - 日本医学会 COI 管理ガイドラインの一部改訂に準拠し、「ガイドライン策定にかかる参加者の COI 自己申告書」のフォーマット案を検討し改訂を行った。
 - JASTRO 学術大会の演題応募に関する倫理規定の改定に向けて検討を進めた。
- **規約委員会(委員長：大野 達也／前委員長：石倉 聡)**
 - 賞等推薦委員会規程改定案について審議し、理事会へ答申、承認がなされた。
 - プライバシーポリシーの改定案について審議し、理事会へ答申、承認がなされた。

■ 財務・総務委員会（委員長：溝脇 尚志／前委員長：宇野 隆）

- 会員の入会動向・審査の取りまとめを行った。
- 代議員改選に伴い、各委員会委員選任案の取りまとめを行った。
- 2022 年度予算を執行し、決算案を取りまとめた。2023 年度予算案を各委員会の事業計画と予算要求に基づいて作成。また、理事会承認案を内閣府に申請した。
- 各委員会・部会よりの次年度新予算・事業案について、予備審査（13 案件）を実施し、承認された案件は理事会へ上申した。
- 「謝金支給規程」における「会員の会議・委員会出席は謝金の対象とならない」との記載について、医療事故第三者調査においては、当該施設よりの会員（調査委員）への謝金支払いは報酬とはみなさないため、支給対象とする注を追記する案を理事会へ上申し、改訂した。
- 「会員等を対象としたアンケート調査を伴う調査研究実施にかかる内規」に基づき 2017 年より学術委員会での審査を実施してきたが、申請者が当会会員であっても主体となる団体が当会以外の場合も多々見られ、原則、当会が主体となる研究のみ承認し、それ以外の可否は専務理事を窓口として審査する内容に変更する案を理事会へ上申し、改訂した。
- 総会資料、理事会議事録の一般への公開について、（会計決算報告は以前から官報に一般公開済）事業報告・計画は総会資料を学会ホームページ（組織概要＞活動概況）に掲載、理事会議事録は他会も参考に、要旨掲載の現議事録をベースに担当理事監修の下、公開する旨理事会へ上申し、承認された。
- 代議員提案事項の募集を行った。
- データ利用申請（会員数等）の審査を行った。
- COVID-19 対策アドホック委員会の活動は 2023 年 6 月をもって一旦終了とした。
- 各団体（品質管理機構法人化等）・会員からの相談（放射線ヨウ素供給不安定等）に対する回答・対策を検討した。

■ 将来計画委員会（委員長：宇野 隆／前委員長：茂松 直之）

- 厚労省「がん対策推進協議会」へ委員として、委員長（理事長）が継続参加した。2022 年 10 月 13 日には同協議会内で「放射線治療に関する現状と問題点」について発表を行った。同様に、厚労省「医療放射線の適正管理に関する検討会」へ継続参加した。
- AI ワーキンググループの名称を AI 研究推進ワーキンググループへ変更した。（WG 長は永田 靖委員長から、村上 祐司委員長へ交代）。また、AI 研究のためのデータベースプラットフォーム構築の委託会社を選定し、理事会へ上申し、承認された。
- 代議員立候補要件等見直しのため代議員選挙制度関連見直しワーキングを設立し（WG 長：大西 洋委員）、代議員のダイバーシティ枠（女性枠、医学・物理枠等）の設置や所信表明の記載等、将来計画委員会で案を審議し、理事会へ上申した。

【部会】

■ 小線源治療部会（担当理事：櫻井 英幸 /部会長：生島 仁史）

- 小線源治療部会会員数：598 名。
- 小線源治療部会第 25 回学術大会を開催した[2023 年 5 月 19～20 日/辻野 佳世子世話人/神戸国際会

議場/参加者：407名（有料314名、研修医・学生11名、招待・関係者82名）】。

- 第1回小線源治療ハンズオンセミナーを開催した[2022年11月26日/吉田 謙世話人/京都歴彩館/参加者：28名]。
- ¹²⁵I 線源計測課題検討ワーキンググループにて、JSMP 学会誌「医学物理」の解説記事として技術報告書「前立腺癌密封小線源永久挿入治療におけるヨウ素 125 シード線源の品質保証」を作成した。
- 令和5年3月23日の厚生労働省医政局長の通知（医政発 0323 第21号）で RALS 室 CT の用途拡大が認められたことに対し、診療用放射線照射装置使用室に設置された CT エックス線装置の単独使用手順書を作成した。
- 令和4年度厚生労働科学研究費補助金研究（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制構築に資する研究」において、研究項目「小線源治療提供体制の現状と課題」を担当した。
- 新部会通則に基づき、役員改選を実施した。（新部会長：大野 達也部会員 2023年9月～）

■ 生物部会（担当理事：石川 仁 /部会長：三浦 雅彦）

- 生物部会会員数：488名
- 第60回生物部会学術大会・第51回放射線による制癌シンポジウムをハイブリッド開催した[2023年6月23～24日/原田 浩世話人（京都大学）/京都府立京都学・歴彩館+Live 配信/参加者135名（有料参加者111名、招待24名）]。
- 第13回放射線生物学セミナーを、教育委員会との共催にて、オンライン開催した[2023年2月18日/テーマ：集学的がん治療における放射線生物学/ 宮川 清世話人（東京大学）/オンデマンド配信：2023年2月28日～3月31日/参加者160名（有料145名、無料15名）]。
- 各ワーキンググループ（①放射線生物学セミナーWG ②学術WG ③広報WG ④トランスレーショナルリサーチ推進WG）において、活動を行った。[主な活動①上記参照。②Journal Clubにて、臨床に関連した放射線生物学的トピックスを扱った論文を2ヶ月に1回紹介した。増殖死と分裂死が混同して使用されていることについて議論することとなった。③関連学会の紹介を中心に放射線生物学研究の面白み、研究哲学等 News Letter に配信。④「放射線治療に対する Exceptional response を規定する分子遺伝学特徴を明らかにする他施設共同研究」は IRB で承認され、解析資料の集積を進めた。]
- ICRP 国際シンポジウムサテライトイベント（2023年11月6日・東京）への後援協力準備を進めた。
- 新部会通則に基づき、役員改選を実施した。（新部会長：原田 浩部会員 2023年9月～）

■ 高精度放射線外部照射部会（担当理事/部会長：大西 洋）

- 高精度部会会員数：724名。
- 第36回学術大会を開催した[2023年3月3日-4日/秋元 哲夫世話人（国立がん研究センター東病院）/千葉 柏の葉カンファレンスセンター・東京大学会議室・KOIL/参加者：635名/第7回高橋信次記念シンポジウム（特定資金事業）と併催]。
- 2023年度実施に向け、SBRT と IMRT 実態調査アンケートの準備を行った。
- 高精度放射線外部照射部会賞の設置を検討した。
- 部会の分科会として、第2回日本 MR 画像誘導適応放射線治療研究会を開催した[2023年7月1日/神宮 啓一世話人（東北大学）/TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口/参加者55名]。

- 第 37 回学術大会を開催することを決定した[2024 年 3 月 2 日（東京）/宇野 隆世話人]。第 38 回学術大会は青山 英史世話人の予定。
- 新部会通則に基づき、役員改選を実施した。（部会長：大西 洋部会員 2023 年 9 月～）

■ **粒子線治療部会（担当理事/部会長：小川 和彦）**

- 粒子線治療部会会員数：183 名。
- 2023 年 11 月 12 日、2023 年 4 月 14 日に粒子線治療委員会と合同で粒子線治療部会開催した。
- 委員会からの指示を受け、臓器別ワーキンググループを作成し、先進医療会議への提出資料の作成を行った。月 1 回程度、臓器別 WG リーダー会議を実施した。
- 先進医療 A に関する施設訪問調査を行い、報告書を作成した。
- 新部会通則に基づき、役員改選を実施した。（新部会長：櫻井 英幸部会員 2023 年 9 月～）